

「わが心のふるさと日野川」

講師

日野川の源流と流域を守る会 会長

永瀬 正治 氏

私は米子の尾高町で生まれ、私の家から南の方の突き当たりに天神さんがございました。天神さんの前に加茂川が流れておりまして、子供のころの加茂川は大変きれいで、魚釣りをしたり泳いだりしてましたが、大変川の流れがきつい場所もあり今見ると、あの川とこの川が一緒なのかと思うほど違っています。

私が小学校に入ったのは昭和17年の4月で、その前の年の暮れに日本は太平洋戦争に突入し、4年生頃には米子にもアメリカの飛行機が飛んでくるようになって岸本町上細見に疎開をしたのが昭和20年の4月だろうと思います。その頃の遊び場は専ら「日野川」でした。そのときに見た日野川は、あの加茂川から見ますと本当に大きな川で、すごくきれいで魚がいっぱいおりましたし、全く退屈もせず朝から晩まで遊んでおりました。わずか5カ月の生活でしたが、そこは今でも心のふるさとだと思っています。色々な思い出がものすごく鮮明でありまして、今でもあの辺に行くとなんとなく心がジーンとしてくるんですけども、そんな思い出がございます。それが日野川との一番最初の出会いでありました。

次に日野川を意識したのは、米子青年会議所という組織に入り30代半ばで役員をさせていただき全国の色々な街に行ってそこの方々と色々な話をしたときでした。全国各地、やっぱりいい街には本当にいい川が流れてる。そういう川を現地の若い方々が、「自分たちの歴史や文化をはぐくんできたのは、この川だぞ」ということをしきりに言ってる、そういう皆さん方と話していると、日本全国それぞれの地域でそれぞれの文化をはぐくんできたのは、やはり日本の自然であったり、その自然がはぐくんだ山や川であったり、水であったり、空気であったりということだと気がつきまして、日野川、あるいは大山、中海、日本海をもう一度きちんと自分なりに見直しておく必要があることを思いました。今までここにあるのが当たり前だと思過ぎていたのではないだろうか、考えてみればこの水があるから俺たちはここまで「おせ」にしてもらったし、日野川でいろんなものができたり、あるいはその前には「たたら」という文化があって、そのためにいろんなところの豪族達が群雄割拠をして、歴史をつくり文化をはぐくんできた。そういうようなベースがあったから、今、米子の経済や生活というのがあるというようなことが少しずつ、やっとわかってきた。40歳までに勉強させて頂き、大変ありがたかったと今でも感謝をしています。

鳥取県西部は、言ってみれば大山と日野川でつくったまちであります。だからそういうお恵みで我々は生活させていただいているということにみんながもう少し思いをはせなければいかんと思いますし、大山に降った水、あるいは日野川水系の水、それが我々の生命線であることも同様です。今、境港、美保関の皆さん方までこの水を飲んでいただいている。日野川から流れてくる

のは大変いい水で、本当にうまい。全国で幾つか水道水をそのままペットボトルに詰めて売っておられるところがあると聞いておりますが、その中でも米子の水は本当にうまい。みんながそう言い、

よそから来た人もそうおっしゃいます。このときに僕は、実は日野川は、こういった歴史を持ってるんだということを、一生懸命語ってやることにしております。特にたたら文化は中世、徳川になってからもそうかもしれませんが、自分たちの勢力を支える大きな柱だったんだろうと思います。尼子が広瀬にいたのもそうだろうと思いますが、武器をつくる原材料をここできちんとつくれるかどうかをめぐる尼子や毛利がこのあたりで争っていたなど、思うところを語っています。

僕はこの日野川を本当に心のふるさとだと思っていますし、ここで生まれ、ここで育ったことに大変誇りを感じております。いろんなところで湧水があるときにも、米子の水道だけは絶対に心配がないことを何度も感じておりますし、本当に幸せなところに我々は住まわせてもらっていると感じています。この自然がはぐくんだ水は、一説によると100年前に大山に降った水を今我々が享受してるということも聞きます。これは大変なことだと思っていますし、こんないい水が、こんなに簡単に我々の手に栓をひねるだけで出てくるのも、その川が我々の文化をはぐくみ、我々の生活を潤す、あるいはこれから先もいろんなことをやってくれると思うと、本当にありがたいことだと思っています。

文化ができてくると人間が住む。人間が住むとエネルギーを使う。事実そのとおりであり、昔のエネルギーの源は山の木を切ることでした。山を裸にしてしまったら水を保有しませんから、そこから砂漠化が始まり最終的には砂漠になってしまう。そういう歴史を今繰り返してはいけません、それは物理的に砂漠にしていけないということと同時に、人間の心の中に砂漠をつくってはいけないということが、ある本に書いてあります。私たちは、本当にありがたいところに住まわせていただいていることに感謝をしながら、これから先も皆さんと一緒に、日野川、あるいは日野川流域を良いところにして、子孫にも、「あいつらが頑張ってくれたから今でもうまい水を飲ませてもらえるわ」というふうに言ってもらえるようにしなければならないなと思っているところであります。

